

飯倉駅前が始まった生涯活躍のまちづくり 第3回 リレーインタビュー

前号では須賀地区（高）にお住まいの先祖代々地元住民である鈴木瑛莉さん、豊和地区（大寺）のUターン住民・林由佳さんから匝瑳のまちについてお聞きしました。今月号ではこのお二人からバトンを渡された方々にインタビューし人々が感じているまちの暮らしをレポートします。

※CCRC=Continuing Care Retirement Community

匝瑳ってこんなまちです。

鈴木瑛莉さんからの紹介で、須賀地区(横須賀)の鶴之沢公蔵さんに聞いてみました。

<【Hair Salon うのざわ】店の前で 鶴之沢公蔵さん>



- ◇好きな食物：焼肉、ピザ
- ◇趣味：ゴルフ
- ◇好きな言葉：[継続は力なり]
- ◇職業：理容師

Q. 匝瑳市には何年くらい住んでいますか？

A. 40年です。おばあさんが床屋をやっていて、母親がそれを継いで、自分が3代目です。

Q. 匝瑳市を離れていたことはありますか？

A. 20歳から6年7ヶ月間、千葉市の床屋で修行するために離れていました。高校卒業するまではまったく床屋に興味はなく跡を継ぐ気はなかったのですが、親戚のおじさんに説得されて専門学校に行ってから面白くなりました。母親は高齢ですが自分のお客の髪だけはまだ切ってます。

Q. 匝瑳市の好きなところ、自慢できるところは？

A. 千葉で修行していた頃は、千葉駅の近くに住んでいたのですが、とにかく暑くてごみごみしていたことが印象に残っています。匝瑳は夏は涼しいし冬は特に寒くなく、気候がいいです。それにごみごみしていません。自然が豊かでのどかで、緑が多く空気がいいです。稲穂が出てきたときなんか田んぼがきれいですよ。都会よりも田舎の方がのんびりした生活ができていいですね。

それに、子供の時から気心の知れた友達もいますし、雨や雪などの自然災害も少なく、安心して暮らせるまちです。だから時々田舎に帰りたくなっていました。

Q. 鶴之沢さんのおすすめスポットは？

A. やはり、田園風景ですね。田植えの頃の力エルの大合唱は圧巻ですよ。

Q. 暮らしにくいところは？

A. 自分は特に暮らしにくいわけではないけれど、家の前の道路を市バスが通らなくなったので、車に乗れない高齢者などは移動手段に困っていると思います。うちの床屋ではお年寄りのお客さんなどには車で送り迎えをしています。

Q. 暮らしの中で驚いた思い出はありますか？

A. あまり思いつきませんね。平和過ぎるのかもしれませんが。そういえばこの間の台風ですかね。驚くような自然災害が余りないところなのに、9月に来た台風（15号）にはびっくりしました。風がとても強く、

<お母さんの髪を切る鶴之沢さん> ガレージの屋根や家の



瓦が飛ぶなんて経験したことがありませんでした。3日間も停電するなんて、東日本大震災に次ぐ脅威を感じました。

Q. 鶴之沢さんの将来の希望は？

A. 結婚して家庭を持つことです。笑顔が絶えず楽しい家庭を持てたら最高です。

◇現在、花嫁募集中です。

九十九里ホームは、匝瑳市から地域再生推進法人に指定されました。お気軽にご意見をお寄せください。

お問い合わせ先 ☎ 0479(72)1400(代表) E-mail: sw99home.machidukuri@axel.ocn.ne.jp

社会福祉法人 九十九里ホーム 法人本部/飯倉駅前まちづくり事務局/庄村まで。

匠瑳ってこんなまちです。林由佳さんからバトンが渡されました。
匠瑳地区(松山)の松山庭園美術館館長さんに聞いてみました。

◇ 好きな食物：イタリアン（パスタ） ◇ 趣味：家族同様の猫と戯れること（美術館には9匹の猫がいます）

Matsuyama Art Museum
正門入口

◇ 好きな言葉：[おもいやり] ◇ 職業：美術館館長



Q. 匠瑳市にはどれくらいお住まいになってますか？

A. 昭和53年からですので、42年になります。

Q. 匠瑳市に来る前はどこにお住まいでしたでしょうか？

A. 横浜市の港北区、日吉と綱島の間あたりです。

Q. 移住しようと思われた理由、きっかけは？

A. 当時は山の上に家がありまして、夜通しで作品の制作に取り組んでいました。そのうち隣の山が開発されていき、住宅ができ人口も増えていきました。陽が昇り私たちがちょうど眠くなる時間に、様々な生活の音や人々の声が騒がしくなり気になるようになりました。静まりかえった夜の中で創作する仕事のスタイルを続けることが難しくなっ

たのです。静かで落ち着いた環境の中での暮らしと創作活動が私たちに必要でした。そんな時に、たまたま画廊のお客様がこの土地を紹介してくれたのです。最初の20年間は、完全移住ではなくいわゆる「2地域居住」でした。この建物は当初、芸術家コノキミクオのアトリエとして建設したからです。土地を買い、コノキが内外装から庭園までデザインをし地元の工務店に建築を頼みました。横浜の住居はそのままにして、創作活動に没頭できるアトリエを棲み処にし、しばらく横浜と匠瑳の間を行き来していました。20年間そのような暮らしが続き、美術館を始めたのは22年前のことです。

Q. どうして美術館を開こうと？

A. この辺りの方は、暮らしの中で美術・芸術に触れるという機会に恵まれていませんでした。匠瑳はおいしい食べ物はあるし田舎でもそれなりの暮らしができますが、身近な存在として美術を楽しんでもらいたかったのです。最初は静かに仕事ができればよかったのですが、小学校に通う子供たちや住民の方たちがこの前の道を通るのを見るにつけ、美術の魅力を伝えたいと思うようになりました。美術が暮らしの一部として自然に在るようなまちにすることが、きっと住み心地の良いまちにつながると思ったのです。

Q. 移住を考えている人に一言お願いします。

A. 海も山もあり自然を楽しむには都心からも近いです。空気もいいし田園がきれいです。子どもものびのびと育ちます。アトリエを建てた頃は若手の芸術家も来ていましたが、その頃はここにはアルバイトの口もありませんでした。食べていけなければ創作し続けることは難しいです。今は就労する気さえあれば仕事はあります。

Q. 館長さんのおすすめスポットは？

A. 飯高檀林跡（飯高寺）です。年輪を感じます。雰囲気が好きです。

Q. いやなところ、暮らしにくいところは？

A. 美術館前の大浦から松山をつなぐ市道が待てど暮らせど開通しないことです。不便ですね。それと、捨て猫が多いこと…かわいそうです。

Q. 暮らしていて驚くような出来事がありますか？

A. タヌキが2匹とイノシシが美術館の庭に現れたことは、生涯の驚きです。うちの猫たちがタヌキを追いかけ、退散させてくれました。

Q. これからの自分の楽しみ、将来像をお聞かせください。

A. 美術好きの人々が集まってきて色んな意見が交わされ、ボランティアでお手伝いしてくれる人たちと地元の方たちに支えられている、普通の暮らしの中に息づく美術館をつくり続けたいと思っています。

※ 檀林:仏教の学問所。飯高檀林は、天正8年(1580年)から明治7年までの300年間多くの僧侶を輩出してきた国指定の重要文化財。総門、杉並木の巨木、講堂は見ごたえがある。朝ドラ「とと姉ちゃん」、映画「忍びの国」のロケ地にもなった。

<Matsuyama Art Museum 館内にあるサロン>

